

地域づくり活動NPO事業助成事業 実績報告

事業区分 (19 — 1)

団体名	(認定)コミュニティ・サポートセンター神戸	代表者名	(職名) (氏名) 理事長 中村 順子
事業名	常設居場所の分析調査事業～持続可能な常設居場所の運営に必要な要素～		

< 事業実施実績 >

年月日 定例は「月1回」 「毎〇曜日」等で記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) 講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
常設居場所調査 2024年5月23日	東灘こどもカフェ	1 (1)	常設居場所調査
常設居場所調査 2024年5月23日	居空間RoCoCo	1 (1)	常設居場所調査
常設居場所調査 2024年5月29日	RICのわ	1 (2)	常設居場所調査
常設居場所調査 2024年6月6日	東灘助け合いネット ワーク	1 (1)	常設居場所調査
常設居場所調査 2024年9月3日	コロコロおむすび	1 (2)	常設居場所調査
常設居場所調査 2024年9月3日	花たば	1 (1)	常設居場所調査
常設居場所調査 2024年9月11日	インクルひろば	1 (1)	常設居場所調査
常設居場所調査 2024年9月19日	まちライブラリー みなとじま	1 (1)	常設居場所調査
研究会 2025年1月30日	CS本部	(6)	調査結果の共有 サミットの内容について
居場所サミット 2025年2月7日	全労済兵庫県推進 本部ホールおよび オンライン	6 4 (15)	サミットin神戸(常設居場所実態調査)の実施報告、 本年度の会計報告、次年度の取組について
研究会 2025年2月27日	CS本部	(7)	サミットin神戸(常設居場所実態調査)の実施報告、 本年度の会計報告、次年度の取組について

< 効果と成果 >

常設居場所のマネジメント状況を分析・公表 対象者を限定せず週3日以上開設している居場所を「常設居場所」と定義し、神戸市内8か所の調査を行った。特に収支状況を分析しパターン化したことで、持続可能性のポイントを示すことができた。 居場所サミットの実施 2月に実施したサミットには会場43名、オンライン21名の64名の参加を得た。オンラインは全国の居場所実践者や行政関係者なども参加し、常設居場所の必要性和実態を広く共有することができた。 企業連携への道筋 調査で明らかになった常設居場所の経済基盤の脆弱性をサポートするため、企業との連携についても研究会で検討した。その結果、東灘区・灘区の10か所の居場所を対象に1か月10回程度「ごちゃまぜカフェ」として無料もしくは安価で利用できる日を設定し、企業寄付で部分的に経費をサポートする仕組みを考案。試行実施に向けた道筋をつけることができた。
--

< 今後の展望 >

・今回の調査を経て、常設居場所は必要不可欠であることが、再確認されたが、神戸市の場合、常設居場所の基盤を支援する施策はなく、運営者の並々ならぬ努力によって維持・継続されているのが現状。

・そういった意味で「ごちゃまぜカフェ」構想に着手し、具体的な協賛企業にもアプローチできたことは大きな成果であった。ごちゃまぜカフェは、2025年3月4月は一社の協賛で神戸市東部地域にてトライアル的に動かし、5月より本格始動するための準備に入っている（3月現在で協賛企業は数社確約あり）。

・今後はこの仕組みをブラッシュアップしつつ、神戸市西部等への横展開も視野に入れる。

・近隣市では実際に行政が常設居場所を支える施策があることから、居場所の機能は非常に公益的かつ地域課題解決に寄与していることから、行政（神戸市）へのアプローチも行う。

・それらの研究・実装・政策提言を通じて、持続可能な常設居場所のあり方に寄与していきたい。

< 収支決算書 >

（収入）

項 目	金 額（円）
地域づくり活動NPO事業助成金	5 0 0 , 0 0 0
その他（参加費収入等）	4 0 , 2 8 0
合 計	5 4 0 , 2 8 0

（支出）

区分	項 目	金 額（円）	左のうち 助成対象金額 （円）
直 接 経 費	講師等謝金	2 0 6 , 0 0 0	2 0 6 , 0 0 0
	事務局人件費	1 8 7 , 0 0 0	1 8 1 , 4 2 5
	広告宣伝費	1 0 1 , 7 0 5	6 7 , 0 0 0
	その他（雑費等）	7 , 5 7 5	7 , 5 7 5
	小 計	5 0 2 , 2 8 0	4 6 2 , 0 0 0
間接経費（一般管理費）		3 8 , 0 0 0	3 8 , 0 0 0
合 計		5 4 0 , 2 8 0	5 0 0 , 0 0 0